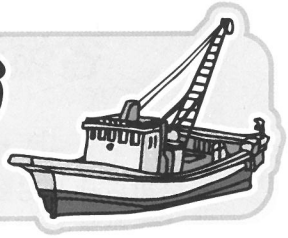
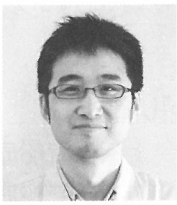
水試の何でも魚ッチング



番外編『新人紹介』

水産試験場浅海増殖部　高橋伸明



4月から水産試験場浅海増殖部に配属されました高橋伸明と申します。出身は山形市ですが、庄内で生活するのは3回目です。私は主にトラフグの種苗生産を担当することになりました。海水魚の飼育はまったくの未経験ですので、将来有望な魚種の種苗生産に関わることができて嬉しいのと同時に、その重責に緊張しておりますが、周りの方々の御指導、御協力を受けながら、日々学んでいきたいと思っております。今後ともよろしくお願い致します。

水産試験場海洋資源部　斎藤祥司

この度、4月1日から臨時的任用職員として山形県水産試験場の海洋資源部に配属になりました斎藤祥司です。

3月に北海道の大学を卒業し、4月から故郷である鶴岡に戻ってきました。

大学は、道東の網走に位置しており、冬は日中でも氷点下10度程度までしか上がらず、夜は氷点下20度近くまで下がることも珍しくありませんでした。

いろいろと、分からない事ばかりで皆様にはご迷惑をおかけしてしまうと思いますが、一日でも早く仕事を覚えるよう精一杯頑張りますので、よろしくお願い致します。

水産試験場に関する漁業者と山形県農林水産部長との「意見交換会」開催

去る4月18日(土)、由良コミュニティーセンターにおいて、漁業者と山形県農林水産部 若松農林水産部長との意見交換会が開催されました。

この会議は1月にも開催され、山形県水産行政が沿岸、沖合漁業に対する強い関心と改革意識を持っている表れである事をうかがわせる活発な意見交換の場となりました。

この意見交換会には県をはじめ県内漁業種を代表される方々と漁協関係者32名が出席しました。

今回の協議事項は、前回会議で漁業者側から要望された内容に対する回答が県側から示されました。中でも、増加傾向にあったズワイガニの漁獲量が下降し始めたことによる漁場維持のため、実施が計画されている海底耕うん作業について、「解禁中の作業ではなく、その漁場を使用しない5～6月に実施し、漁獲量の増減で効果を確認すべきである。」などの意見が出されました。

また、漁業試験調査船「最上丸」の代船建造についての意見交換もあり、「最上丸に研修場所の機能を持たせ漁業就業者確保の役目を担ってほしい。」という期待を込めた意見のほか、いか釣漁業関係者からは、「年間稼働実績の内の何日かの調査のために、いか釣艤装でお金を掛ける事は望まない。」との厳しい意見も出ました。

この他、延縄漁場に関する事や採貝藻漁業が抱える問題提起など実に濃い内容の会議となりました。

これに対して、若松農林水産部長からは、「漁業調査船「最上丸」に対する意見はもっと厳しい意見が出るものだと思った。皆さんから頂いた意見・要望については、出来ること・出来ない事があるが、漁協とも連携して現実的となるように取り組んで参りたい。今後も皆さん方と膝を交えてこのような機会を設けて行いたい」と述べ、意見交換を終了しました。

山形県としては、代船建造を、次回定期検査を迎える平成31年度までに実施したいという考えがあり、判断に至るまでに活発な意見交換会が行われる事と思います。　（指導課　西村）

● 安全は　船と心の　整備から